

学校の授業に連携した教育プログラムの実践

○堀口由美子 賀曾利亜紀 荻田あつみ 森角興起
(公益財団法人横浜市緑の協会 金沢動物園)

金沢動物園では、小学校から高等学校の動物や自然、動物園に関連する学習単元に連携した教育プログラムを作成、実践している。

プログラムのレポーター（対象学年と教科）は、①動物たちにズームイン！（小学1年国語「いろいろなくちばし」）、②どうぶつの赤ちゃん（小学1年国語）、③どうぶつ園のじゅうい（小学2年国語）、④動物のほねときん肉（小学4年理科）、⑤自然界のつり合い（中学3年理科）、⑥野生動物と生物の多様性（高等学校1・2年総合）で、国語と理科を対象としたプログラムが多かった。

実施方法は、動物園でスライドショーと派生物を使用したレクチャー（①②③）、動物園で紙芝居と直接動物に触れながらレクチャー（④）、動物園で動物観察やスライドショーを使用したレクチャー（⑥）、学校に出張してスライドショーと派生物を使用したレクチャー（①②③）、動物園と学校で自然や土壌生物の観察（⑤）の5通りを準備し、内容は教科書や学習指導要領を参考に作成した。

平成26年度の実施校数と実施回数は、①6校6回、②11校11回、③14校14回、④23校23回、⑤1校8回、⑥1校2回、合計56校64回だった。これは、平成26年度に学校団体を対象とした教育プログラムの全実施回数197回のうちの約3割を占めた。

担当教諭を対象にしたアンケートでは、「学年に合わせた内容で学習が深まった」「授業の内容をタイムリーに展開してもらえた」「実物に触れることができ大興奮だった」などの感想があった。

学年ごとの学習単元に合わせた教育プログラムを提供することで、学校教育の学習効果を深める手助けができたと考えられた。また、実際に動物や派生物、自然を観察したり、動物に触れたりする体験を交えた学習をすることで、教科書の内容を具体的に実感できたのではないかと思われた。